

w-SDS活動と低圧電気取扱特別教育への技術職員の支援

先端研究支援グループ 山田修一

w-SDS活動への支援

長岡技術科学大学の安全衛生方針では、『機器、設備等又はそれらを使用する作業等において適用される関係法令の横断的な管理方法を確立するため、「作業のセーフティ・データ・シート」を作成すること』となっています。この方針に基づき、w-SDSの全学実施に向けたw-SDS実施ワーキンググループが平成22年4月に安全衛生管理委員会の下に設置されました。ワーキンググループメンバーには教員の他に技術職員5名が選任され、w-SDSのスムーズな実施に向け検討を行うことになりました。

具体的には、ワーキンググループの技術職員5名でw-SDS実施の方法と手順書の作成を担当することになりました。毎年継続的に活動するための方策として、手順の中で最初に行うw-SDSミーティングを重要視しました。このミーティングは研究室のメンバー全員で実験に関する危険源の把握と安全に対する認識について話し合う安全衛生教育としました。ミーティングに出席した全員が署名した記録書を総括安全衛生管理者に提出することとし、記録書は現在まで毎年ほぼすべての研究室から提出されています。

また、ワーキンググループの技術職員で学外公開版実施手順書の作成や改訂版を作るほか、主査教員と技術職員が毎年4月に教職員を対象として実施説明会を行っています。現在までに17回開催し、令和2年度からはコロナ禍のためZoomで行っています。

低圧電気取扱作業特別教育への支援

装置の電源を分電盤に接続するためには低圧電気取扱作業特別教育の受講が必要となります。w-SDSの実施に伴い、多くの教職員・学生が受講する必要があると思われたため、平成24年8月に学外から講師を招き学内で実施されました。2回目の平成25年3月からは、中災防の電気取扱作業特別教育インストラクターコースを受講した技術職員2名が7時間の講義と実技1時間を担当ました。(開閉器の操作に限定し実技を1時間とした)。3回目からは教員も講師に加わり開講しており、現在まで18回が行われ、290名が受講しました。

まとめ 技術職員と安全衛生活動

w-SDS活動の導入や低圧電気取扱特別教育の活動が評価され、筆者は「本学へのw-SDSの導入・定着及び低圧電気取扱特別教育の導入、継続」にて長岡技術科学大学・令和2年度教育活動表彰を受賞しました。

今後、大学全体での安全文化を醸成し、より安全な環境で研究を進めることができるように、技術職員が専門知識を活かして安全衛生活動に継続的に取組んでいきたいと思います。

